

【業務委託報告書】

令和7年度地域観光資源磨き上げ事業(ユニバーサルツーリズム普及事業)

ユニバーサルツーリズムフォーラム

すべての人が訪れやすい 鹿児島をめざして

『対象』

観光関連事業者（観光・旅行・宿泊・交通・サービス業）

『実施の目的』

高齢になっても、障害があっても、ともに観光・旅行を楽しめるのがユニバーサルツーリズム。旅行会社、観光・飲食・サービス業、旅の介助者、通訳、インバウンドも視野にいて、鹿児島への観光客誘致へつなげる。【南の宝箱 鹿児島】行きたい、会いたい、楽しみたい、とおもっていただける観光地を目指す。

『手法』

車椅子当事者であり、バリアフリー化の一番先端にいる一級建築士の講師。現場目線と、当事者目線で、ユニバーサルツーリズムを両側の視点からみることができる稀有な存在。過去の住宅設計から日本は転換期であると話す。まさに「障害の社会モデル」であり、なにが障害になっているかを問う。

二人目の講師に、実際に鹿児島で取り組んでいるホテルのユニバーサル化を語ってもらい、障害があっても、高齢になっても堂々と宿泊から学べることは貴重な機会だ。

3人目の講師は、桜島でユニバーサルコースを設けるガイドの話。他の地域でできるヒントが満載だ。鹿児島のも自信がもてるようになるフォーラムをめざす。

ユニバーサルツーリズムに必要な、旅行会社のブース、ユニバーサルビーチ、福祉タクシー、外出時に必要な品をレンタルする福祉用具、電動モビリティなどの展示ブースをだす。ユニバーサルツーリズムを支えるひとたちが、つながりを持ち、一斉に誘客に向かう姿勢を造成するフォーラムをめざす。

2. 日時及び講師・スタッフ

『日時』

開催日 令和 7年12月3日 水曜日

場所 鹿児島中央公民館 大ホール

『講師』

株式会社阿部建設 一級建築士 阿部一雄氏
城山ホテル鹿児島企画広報部 安川あかね氏
桜島ジオサルク ガイド 姥 千恵子氏

◇スタッフ

記録2名

動画撮影1名

手話通訳2名

手話ボラアンティア2人

受付2名

会場誘導3名

3. 研修スケジュール

9時 関係者集合・設営 機械類搬入

13時受付

14時開始

- ・ご挨拶 主旨説明
- ・「だれもが旅を楽しめる社会へ」
株式会社阿部建設 一級建築士 阿部一雄氏
- ・「インバウンドから LGBTQ+、障害のあるかたも
ホテルライフを楽しんでいただいたくて」
城山ホテル鹿児島企画広報部 安川あかね氏
- ・「五感で感じるわくわくドキドキ！
ユニバーサルコースのガイドとして」
桜島ジオサルク ガイド 姥 千恵子氏

16時終了

18時分 撤収

4. 内容

☐ 第一部

【だれもが旅を楽しめる社会へ】
～ユニバーサルツーリズムのこれから～

株式会社阿部建設 一級建築士 阿部一雄氏



ユニバーサルツーリズムにおける課題は、宿泊の問題が大きい。旅行会社も、宿泊先に不備がないか神経質になる。ホテルに何度も電話したり、フロントは、トイレやバスにはしる。そんな不便を解決するために IKEEL という建築士用のカメラで撮影し、宿泊客に自分で判断してもらうように寸法まではいった3Dカメラで撮影したデータをホテルのホームページにアップする活動をしている。ホテルだけでなく、人気の観光地でも採用の可能性が有る。だれもが、旅を楽しめる社会に必要なことや、情報を提供した。

☐ 第二部

城山ホテル鹿児島 安川あかね氏



上記、阿部一雄氏も実際に宿泊して感じたユニバーサルホテル。その取組は障害者だけでなく、LGBT や一般の人のバリアを思いやる取り組みまでなされていた。入浴介助システムや、

乳がん患者のための湯着への配慮など、スタッフがよいと思ったことを、すぐ改善し、その後もPCDAをくりかえす。取り組みへの姿勢も参加者が「知らなかった。すばらしい取り組みだ」と感嘆するほどだった。肢体不自由、視覚、聴覚、多様な顧客を想定して、日々研鑽している。
桜島ジオサルク 姥千恵子氏



観光ガイドの高齢化が顕著になる時代、若い世代が運営し、活気のあるガイド団体。顧客は断らない。インバウンドがくるなら、語学やアプリを導入する。肢体不自由な方、視覚障害、聴覚障害など、申込時に記入されていることから、様々なことを読み取り、最大限のおもてなしをする。コミュニケーションをとりたい、という気持ちを大切にしている。会場には、桜島ジオサルクのユニバーサルコースを体験した車椅子ユーザーが講演をききにきていた。マイクを向けると、海外からの車椅子ユーザーを思いきり楽しませてくれた御礼を伝えた。

休憩時会場



参加者の中には、視覚障害者、聴覚障害者、車椅子ユーザー、多様な障害をもつひとたちも申し込みがあった。手話通訳、ノートテイク（要約筆記）、同行援護（視覚障害者のヘルパー）なども待機し、ともに学んだ。



△ユニバーサルビーチ



△足こぎ車椅子コギー



△次世代電動車椅子ウィル



△旅のレンタル用品を扱うカクイックス



△鹿児島県旅行業協同組合

ユニバーサルツーリズム相談窓口

5. 【総評】

ユニバーサルツーリズム必要なことは何か？を考え続けてきたが、結局、情報と、ものと、人なのではないかと考えるようになった。大切なのは、関係する機関を増やすこと、ともに鹿児島を愛し、この地にたくさんの人を来てほしいという思い。

今回は、安倍氏の県外目線、ほかには鹿児島講師、鹿児島への想いが溢れる会社にブース依頼をこなした。人が集まるか不安もあったが、フォーラムの途中でも駆けつける人あり、仕事で途中抜けるひとあり。

それぞれの参加者が口々に「おもしろいことやろう」「こんな異業種のあつまりなのに、すぐ意気投合したよ。鹿児島の観光を盛り上げよう」などの声にあふれた。

県外の安倍氏が最後に「鹿児島は、食べ物も美味しい、人も優しい、このご参加のみなさんがタッグを組めば、チーム鹿児島ができる。素晴らしい」と話していた。まだまだ、鹿児島は力をだしきっていない。時代は閉塞感にあふれ、人はスマホをみて、下をむくばかり。今こそ、旅や観光を柱に鹿児島を宝箱だと自慢できる健常者も含めたユニバーサルツーリズムを推進できると確信したフォーラムだった。

以上